

比較文化学科 卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

文学部比較文化学科は、基盤教育による基盤力に加え、比較文化学に関する専門教育を通して、以下の能力を有すると認めた者に学士(比較文化学)の学位を授与します。

■ 豊かな「知識」

文化資源の保存・活用及び多様な文化の交流・共生について幅広い知識を身につけているとともに、文学、思想、言語、歴史、美術、宗教、生活文化、メディアなどの自らの専門分野について体系的に理解している。

■ 知識を活用できる「技能」

英語もしくはそれ以外の諸言語を用いて基本的なコミュニケーションができるとともに、専門書など必要な文献を読みこなすことができ、自らの専門分野についての研究方法を身につけている。

■ 次代を切り開く「思考・判断・表現力」

文化資源・文化共生の課題について、論理的に思考し判断する力と、自文化を論理的かつ的確に発信する力を身につけている。

■ 組織や社会の活動を促進する「コミュニケーション力」

文化資源・文化共生の学修を通して、地域社会におけるつながりを創り出す力と、他者と協働し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

■ 社会で生きる「自律的行動力」

文化資源・文化共生への理解を通して、地域・国際社会における文化の振興と交流に貢献する姿勢を身につけている。

～その基盤力として、基盤教育で次の力を身につけます～

- ・地域・環境・世界(地球)の分野を中心として、社会で生きていくための基盤となる幅広い知識を有している。
- ・英語などの基礎的運用能力、情報リテラシー、資料等を読み解く技能を身につけている。
- ・多様なものの見方、考え方、価値観などを理解し、思考・判断することができる。
- ・個人の異なる生き方や価値観を理解し、社会と調和し、組織や社会の活動を促進することができる。
- ・他者との関わりの中で自己を律し、自己のキャリア形成に向けて継続して学び、公共性、倫理性を持って行動できる。

※ 基盤力の詳細は基盤教育センターのページを参照